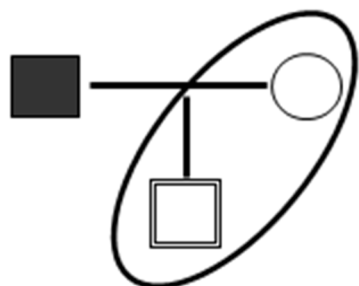


【事例】	氏名：山田 太郎（仮名）	性別：男性	年齢：22歳
障害名：知的障害（療育手帳 B2）・AD/HD			
<p>（相談経路）</p> <p>太郎と同居している母より A 市障害福祉課に電話相談があった。電話相談の内容としては、母の乳がん再発により手術を受けることになった。1ヶ月ほど入院し治療しなければならなくなり、その間太郎さんの日常生活の支援ができなくなる。母からは前回の入院中は短期入所を利用しながら障害福祉サービス事業所めじろんを利用したため、今回も同様の方法により通所させたい意向を持っている。</p> <p>（対応）</p> <p>障害福祉課担当者は太郎氏の支援をしている相談支援事業所ぶんごの相談支援専門員に電話連絡をおこない、上記相談内容を伝達した。それを受け相談支援専門員は母に電話連絡をおこない、母同席のもと本人との面接の調整をおこなうことができた。電話で母からは「私の入院期間中、短期入所を使えるようにしてください。」「太郎は私がいないと何もできない。」などとの発言が聞かれた。</p> <p>（生育歴）</p> <p>平成 8 年 大分県 A 市にて出生</p> <p>平成 9 年 かぼす保育園に通園開始</p> <p>平成 11 年 3 歳児健診で指摘され、医大を受診した。</p> <p>平成 14 年 4 月 かぼす第一小学校入学</p> <p>平成 15 年 父逝去</p> <p>平成 17 年 4 月 かぼす第一小学校（小 3）特別支援学級に在籍</p> <p>平成 20 年 4 月 かぼす第二中学校特別支援学級に在籍</p> <p>平成 23 年 支援学校高等部を目指すため、療育手帳を取得（学級担任より母に勧めがあった。）</p> <p>平成 23 年 4 月 豊後支援学校に入学</p> <p>平成 26 年 3 月 豊後支援学校を卒業</p> <p>平成 26 年 4 月 障害福祉サービス事業所めじろんの利用が開始となる。ぶんご相談支援事業所がサービス等利用計画の作成をおこなった。</p> <p>平成 28 年 障害基礎年金 2 級取得となる。ぶんご相談支援事業所相談支援専門員が手続き支援をした。</p>			

(家族構成) ※下記ジェノグラムを参考



母親と2人暮らし。父は小学校2年生の頃に他界した。父他界後、母は保険会社営業にて生計を立てている。叔母が隣町に在住している。日頃は電話でのやりとり、時々家にやってくることはあり、本人との面識はある。

【ADL】

- 食事) 食事行為全てにおいて自立している。箸をうまく使えないので、スプーンを使うことが多い。
- 入浴) 全自動給湯器(ボタンを押すのみだが、お風呂は母が準備している。)入浴は「きちんと入っている。」と本人は言っている。母は「うまく洗えていないことがある。」と話している。
- 排泄) 排せつ行為については、特に失敗ない。

【IADL】

- 買物) 自分の欲しいもの(DVDやコンビニで買う嗜好品)は買うことができる。持っているお金は使ってしまう傾向にある。(母からは「無駄遣いはしないように」と注意を受けている。)
- 調理) 調理経験がない。火事の危険性があるため、火気使用を禁じている。
- 洗濯) 全自動洗濯機(母が洗濯はしている。)干すこと、たたむことはできない。
- コミュニケーション) 知っている人(就労継続支援B型職員等)へは自分の気持ちを伝えることができる。一方的に自分の言いたいことを伝えてしまう。知らない人に対しては、黙ってしまう。携帯電話を所持している。
- 移動) 慣れているところは、一人で行くことができるが、初めての場所は一人で行くことができない。就労継続支援B型の通所は、送迎を利用している。
- 余暇活動) 普段、お母さんと一緒に外出する。その他は家でDVDを観ている。

(インタビュー・アセスメントによって得られた情報)

- 自宅での調理経験はほとんどない。キッチンにはガスレンジがあるが、火事の危険性があるため使用を母が禁じている。母が外出(太郎氏が留守番)する際は外のガス元栓を母が閉めている。電子レンジで温めること、ポットを使用することはできる。食器洗いは母の手伝いをすることがあるが、洗い残しがよくあると母は話していた。

- 多額の金銭管理は難しいので通帳等管理（障害基礎年金2級と通所工賃月14,000円程度を含む）は母がしている。週1回お小遣いを母から受け取る（1,000円/週）。
- 自宅の風呂は全自動にて給湯する。ボタンを押すのみだが今は母が準備している。入浴行為は概ね自立している。母からは「本人はできるというけど、洗えていないと思う。」との発言が聞かれている。
- 洗濯は全自動洗濯機には母が入れて洗濯をしている。
- 自分の好きなもの（DVDやコンビニで買う嗜好品）は買うことができる。渡したお金はあるだけ使ってしまう傾向にある。母からは「無駄遣いはしないように」と注意を受けることがよくある。
- アニメのDVDを観るのが好き。めじろんがお休みの時は、飽きることなく自宅にてDVDを観て過ごす。DVDに熱中すると夜更かししがちで、母からは早く寝るように注意を受けることがある。
- めじろん利用日の朝は、送迎車に間に合うように母が起こしている。
- めじろんに平日（月～金）通っている。昼食はめじろんにて提供あり工賃から天引きされる。送迎を利用している（自宅付近のコンビニが集合場所となる。そこまでは一人で行くことができる。）めじろんではパンやクッキーの製造作業を担当しており、作業内容については満足している。
- 顔見知りには自分の気持ちを伝えることができる。本人なりに心を開いた相手には、一方的に自分の言いたいことを伝えてしまう。初めて会う人に対しては黙ってしまう傾向にある。母との関係については、母の発言力が強いため、発せられた言葉に対しては意見が違ふとよく黙り込むような印象を相談支援専門員は持った。
- 慣れた場所には一人で行くことができる。初めての場所には行けないと判断しているため、行かせていない。普段の外出は、基本的に母と一緒に外出する。移動支援（月10時間）の利用あり、コンビニでの買物やレンタル店でDVDを借りる等の支援を受けている。
- 携帯電話を持っている（スマートフォンではない）。本人の使い過ぎを心配している。電話応答のみの目的で使用している。メール、インターネットについては、最低限の利用契約をしている。
- 市営住宅に入居している。
- 支援学校高等部在学中にも母が乳がんにて入院したことがあり、その際はショートステイを利用した。
- 隣町に住む叔母がいる。本人も面識はある。

(本人の気持ち)

(相談支援専門員との面接の中で聞かれた言葉。)

「お母さんの入院している間、僕は今まで通りの生活をしていきたい。」

「施設はいや。」

「一人は不安。」

(母の気持ち)

- 太郎は私がいなくなにもできない。太郎の安全のことを考えると短期入所を利用しながらめじろんに行ければ一番いいと思う。太郎も「めじろんに行きたい」と言っていた。

(課題について)

- 上記事例概要をもとに、山田太郎氏のサービス等利用計画案（別紙2～5）を作成してください。
- 事例概要で不足している情報については、太郎氏の相談支援専門員であるあなたの想像で太郎氏像を作り上げてもらって構いません。
- 現段階では、インテーク（受理面接）にて得られた情報に過ぎません。相談支援専門員であるあなたが事例概要を見て、アセスメントをおこなったと想定し、ニーズ整理、プランニングをおこなってください。